



© JFA / PR



VOL.17 2020.04.08

委員長コメント

JFA 女子委員長 今井純子

皆様、お久しぶりです。

2020年3月29日の定時評議員会を経て、引き続き女子委員長を務めさせていただくことになりました、今井純子です。

以前より申し上げていますが、2019年ワールドカップに続き、これからの4年間は、1年の延期が決定となりましたが東京五輪、女子トップリーグのプロ化、国体少年女子の部の開始、2023年女子ワールドカップ招致と、女子サッカーにとって大きなトピックが続く、パワーをもった時期となります。この時期に、女子サッカーを大きく発展させられるように、普及を進め、ぜひともまずは倍増、10万人、男女比10%を達成できるように、全国で女子サッカーの裾野を広げ、女子サッカーを厚くすることができるように、していきたいと考えています。

そのためにも、JFAで活動する普及コーディネーターの皆さんの活動が非常に重要な核となります。普及は、全国で、各地で、一つ一つ確実に形になっていくことが大切です。様々な施策や取り組みが、各地で適切な形で生かされていくこと、つながっていくことが不可欠です。都道府県ごとに、状況は大きく異なります。それぞれの状況や資源に適合させていって初めて、普及は進んでいくものと認識しています。非常に重要な役割を負っていただいている皆様と共に取り組んで行けること、大変心強く思っています。どうぞよろしく願いいたします。

この普及コーディネーターだより、しばらくお休みをさせていただいておりましたが、47FAの普及コーディネーターの皆さんがお互いの事例を共有すること、女子サッカーに関わる情報を共有すること、また女子サッカーの普及に関して、また普及コーディネーターの皆さんの活動に関して、FA内の多くの方々に知っていただくことに、意義のあるものとして、この度再開させていただくこととしました。ぜひとも有効に活用していければと思います。

新型コロナウイルス感染の影響が、サッカー界、スポーツ界にも大きな影響を及ぼしています。4月7日に、緊急事態宣言も出され、JFAとしても、あらためて5月末まで、全ての主催事業（トレーニング、講習会、研修会、視察等を含む）を延期、または中止とすることとしました。

年度末、年度始めのこの時期、休校や活動の休止を余儀なくされている状況です。子ども達も、思い切り外で友達と身体を動かすことさえできない状況が続いています。まずはこの状況が収束することが何よりも大切です。手洗い、うがいといった予防措置を確実にとること、感染拡大のリスクのある行動を一人ひとりが慎むことが、自分、そして周囲の人を守る、とても大切な行動です。一人ひとりが自分に関わる身近なこと、現実のことと考え、真摯に力を合わせてこの状況を乗り越え、この状況を収束させ、再び心置きなくサッカー、スポーツを楽しめる時を楽しみ、頑張っていきましょう。

ピンチをチャンスに。この時期が有意義なものとなり、今後に生きるものとなっていくよう、こういう時だからこそできること、考えられることを大切にしていきたいと思います。

FIFA女子ワールドカップ2023招致活動

FIFAによるインスペクションを終了

2月24日(月・祝)から始まったFIFA女子ワールドカップ2023招致のためのFIFA視察は、全プログラムを終えて27日(木)に終了しました。

四日間の行程では、国立競技場、サンガスタジアム by KYOCERAといった真新しいスタジアムをはじめ、練習場やチームホテル、抽選会場として提案している両国国技館などを視察しました。2023年大会から出場チームが24から32に増え、大会のレベルや規模も引き上げられることから、女子ワールドカップ開催の要件は高くなっています。大規模な国際大会の開催経験やチーム、運営関係者への温かいおもてなしは日本が得意とするところで、「訴えるべきところは、訴えた。今後も誠実に招致活動を続けたい」と田嶋幸三JFA会長は視察を振り返りました。

今回の視察では、各施設で知事や市長、市民による「女子ワールドカップを開催したい」想いがありとあらゆる方法でFIFA視察団に伝えられました。「自治体が積極的に関わってくれた」と田嶋会長も感謝を口にしていました。

日本は世界で唯一、全カテゴリーでFIFA女子ワールドカップを制しています（FIFA女子ワールドカップドイツ2011、FIFA U-17女子ワールドカップコスタリカ2014、FIFA U-20女子ワールドカップフランス2018）。アジアや南米をはじめとする世界各地で女子サッカーの普及、発展に努め、このスポーツを大事にしてきました。プレーする側もその思いは同じ。シーズン開幕前で現役選手の参加は叶いませんでしたが、東京では澤穂希さん、宮間あやさん、埼玉では佐々木則夫前監督、京都には海堀あゆみさんが訪れ、ときには直接英語で元なでしこジャパン（日本女子代表）選手や監督が日本開催を訴えました。

UEFA理事会で日本開催をアピール

FIFA女子ワールドカップ2023日本招致委員会は3月2日(月)から3日(火)にかけ、ヨーロッパサッカー連盟(UEFA)の理事会、総会で日本開催を各国に訴えました。

オランダのアムステルダムで行われたUEFA理事会、総会には田嶋幸三招致委員長/JFA会長、今井純子副委員長/JFA女子委員長、江川純子招致事務局本部ダイレクターが出席。UEFA理事会では招致国(日本、ブラジル、コロンビア、オーストラリア/ニュージーランドの共催)に各10分のプレゼンテーションの機会が与えられました。

昨年、フランスで行われたFIFA女子ワールドカップ2019は大成功で幕を閉じ、ヨーロッパの女子サッカーは勢いを増すばかりです。日本は、ベストのスタジアム、インフラ、開催能力で選手・スタッフ・世界各地のファンが安心してストレスを感じることなく大会を楽しむことができ、日本の文化で新たな価値を提供できる、と良さを訴えました。その後の総会では、理事や各所属協会の女子サッカー関係者などとのディスカッションを通じて、女子サッカーへの熱意を伝えました。

今後は、各招致国の開催提案書や視察をもとにFIFAが評価レポートを公開。当初、6月にエチオピアのアディスアベバで行われるFIFAカウンスルミーティングで開催国を決定する予定でしたが、昨今の状況により延期になる可能性があり、FIFAからの通達を待っている状況です。



JFA 女子サッカーデー

2019年度第5回理事会(2019/5/16)にて、「毎年3月8日の国際女性デーに合わせてこの日を『女子サッカーデー』とし、女子サッカーの普及・発展に関わる取り組みを全国で実施する日」とすることが決議されました。

2020スローガンとロゴマークを発表し、多くの事業を計画しておりましたが、昨今の状況により、国内で実施を予定していたイベントは残念ながら中止することになりました。

一方で、広報活動については予定どおりに実施し、3月8日当日には、アメリカで試合を行ったなでしこジャパンが、国際女性デーと女子サッカーデーを祝う黄色の腕章を着用したほか、朝日新聞全国紙への15段広告掲載、JFA.jpやSNSでの情報発信を行い、多くの注目が寄せられ、このトピックに対する関心の高さを実感することができました。

来年はぜひ、多くの都道府県であらかじめ計画いただき、全国で、女子サッカーを様々な角度から考え、盛り上げる日にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

これからも、なでしこビジョンの実現に向け、皆様と力を合わせ活動に取り組んでいきます。

2020スローガン

「世界でいちばんフェアな国になろう」

「JFAのバリュー」に掲げる「フェア」を用い、誰もが自分の夢に向かってチャレンジできる社会を広げていこうという決意をこのスローガンに込めました。日本が世界に誇るフェアプレーの精神を体現し、性差や年齢、人種、障がいの有無などにかかわらず、誰もが、サッカーをする、見る、参加する機会を享受できる環境づくりに取り組んでいきます。

ステイトメント

女性の生き方は、ひとつじゃない。
仕事に情熱をそそぐ人がいる。
勉強をとことんがんばる人がいる。
おしゃれを楽しむ人もいて、
家族の時間をたいせつにする人もいる。

サッカー界にも。
毎日遅くまで練習にはげむ人がいる。
休日はボールを蹴ってリフレッシュする人がいる。
スタジアムで声援をおくる人もいて、
なでしこを夢見て努力をつづける人もいる。

サッカーを愛するすべての人が、なにものにも縛られず、
もっと自分らしく咲き誇れるように。
ひとりひとりのチャレンジや夢やその選択を、
心から応援できる社会になるように。
日本サッカー協会は、3月8日の
「国際女性デー」を「女子サッカーデー」と位置付け、
誰もがサッカーを楽しめて、誰もが輝ける
社会の実現をめざします。

「Sports assist you ～いま、スポーツにできること～」の取り組み

JFAは「Sports assist you～いま、スポーツにできること～」と銘打ち、現在、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため自宅で待機されている皆様に、ひとりでも、また室内でも取り組むことで健康の維持、促進につながるコンテンツをインターネット上で配信する取り組みを実施しています。

コンテンツにはこの取り組みの主旨に賛同してくれたプロサッカー選手たちからのレッスン動画や、JFAが持つ知見、ノウハウを基にした専門家たちによる健康維持、促進に向けたエクササイズやサッカーに特化したプログラムを用意しています。またスポーツ界で本取り組みに賛同いただいた団体のコンテンツも紹介しています。

http://www.jfa.jp/grass_roots/sportsassistyou/

〈コンテンツ〉

- ・プロサッカー選手らによる動画コンテンツ
- ・JFAチャレンジゲーム
- ・育成年代向けコンディショニングプログラム
- ・日本サッカーミュージアム おうちで出来る！自宅学習素材 無料提供
- ・サッカー日本代表 360° 映像「The Blue 360°」
- ・ルールを知らう！
- ・正しいウィルス対策のポイント
- ・田嶋会長便り
- ・賛同スポーツ団体取り組み紹介

正しいウィルス対策のポイント

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、日本全体で様々な動きが見られる中、ここでは今一人ひとりができる「日常生活で気を付けること」や「正しい対策」をまとめました。

★感染を防ぐためには、毎日の健康管理が大切です！

- ・手洗いをしっかり行いましょう
- ・十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけましょう
- ・適度な湿度（50～60%）を保ちましょう

★手洗いを正しく行いましょう！

流水と石鹸による手洗いを頻繁に行いましょう。特に外出した後や咳をした後、口や鼻、目などに触る前に手洗いを徹底しましょう。

- ① 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらによくこすります。
- ② 手の甲をのばすようにこすります。
- ③ 指の間を洗います。
- ④ 親指と手のひらをねじり洗いします。
- ⑤ 指先・爪の間を念入りにこすります。
- ⑥ 手首も忘れずに洗います。

★咳エチケットを守りましょう！

咳やくしゃみをする場合には、口と鼻をマスクやティッシュ、ハンカチ、袖を使って覆いましょう。その後、ティッシュは捨て、流水と石鹸で手を洗いましょう。

★消毒を行う場合には、下記に注意しましょう！

- ・皮膚の消毒を行う場合には、消毒用アルコールを用いてください。
- ・物の表面の消毒には次亜塩素酸ナトリウム（製品に表示されているとおりの希釈したもの）が有効です。消毒薬液を十分に含ませたペーパータオル等で拭き取るようにしてください。噴霧は不完全な消毒やウィルスの舞い上がりの可能性があるため、避けましょう。また、換気をするなど、「使用上の注意」をよく読んで使いましょう。

女子中学生チーム創設支援

「HER TEAM」プロジェクト（アディダス ジャパン株式会社企画）

長年の課題である中学生年代の環境整備について、本プロジェクトの賛同企業であるアディダス ジャパン株式会社による、女子中学生チーム創設を支援する「HER TEAM」プロジェクトとなります。

【プロジェクト概要】

■対象：

- ・中学生年代（U-15 年代）の女子がプレー可能で、2020 年度に新規創設されるチーム
- ※既に「女子」以外の種別で JFA 登録をされているチームが、新たに「女子」の種別で JFA 登録をされる場合も対象とします。
- ・2020 年 4 月から 2021 年 3 月までに、チームが創設され、「女子」の種別で JFA 登録を完了すること。
 - ・継続的なチーム運営を前提とします

■サポート内容：

1. メンバー募集のための告知ツール
2. ユニフォームの提供
3. サッカークリニックの開催

■募集数：10チーム

■募集期間：2020年3月8日よりアディダスオンラインストア上の特設応募ページ（下記URL）にて受付開始

※詳細は、特設ページ

<https://shop.adidas.jp/createthechange/girlsfootball/>をご覧ください。

<本プロジェクトに関するお問い合わせ先>

アディダスお客様窓口 TEL:0570-033-033（土日祝除く 9:30~18:00）

2020年事業計画

〈国内競技会〉

■皇后杯 JFA第42回全日本女子サッカー選手権大会

2020年10月24日（土）～12月27日（日）

決勝：未定

■第29回全日本大学女子サッカー選手権大会

2020年12月24日（木）～2021年1月17日（日）

決勝：1月17日（日）@味の素フィールド西が丘（東京都/北区）

■JFA U-18女子サッカーファイナルズ2020

2020年9月19日（土）、21日（月・祝）

決勝：2020年9月21日（月・祝）@サンガスタジアム by KYOCERA（京都府/亀岡市）

■XF CUP第2回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）

7月27日（月）～8月3日（月）

決勝：8月3日（月）@コーエィ前橋フットボールセンター（群馬県/前橋市）

■令和2年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技（女子）

8月21日（金）～8月25日（火）

決勝：8月25日（火）@群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場（群馬県/前橋市）

■第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

2021年1月3日（日）～1月10日（日）

決勝：2021年1月10日（日）@ノエビアスタジアム神戸（兵庫県/神戸市）

■JFA 第24回全日本U-18女子サッカー選手権大会

2021年1月3日（日）～1月9日（土）

決勝：2021年1月9日（土）@Jグリーン堺（大阪府/堺市）

■JFA 第25回全日本U-15女子サッカー選手権大会

2020年12月12日（土）～12月28日（月）

決勝：2020年12月28日（月）@味の素フィールド西が丘（東京都/北区）

■JFA 第32回全日本0-30女子サッカー大会

2021年3月 @未定

■JFA 第32回0-40女子サッカーオープン大会

2021年3月5日（金）～7日（日）@Jヴィレッジ福島（福島県/楡葉市）

〈普及活動〉

■普及コーディネーター研修会

2020年7月4日（土）@JFA夢フィールド



なでしこひろば

なでしこひろばデータをまとめてみました

全国都道府県別認定団体数及び2020年3月開催申請数

都道府県	団体数	開催申請数	都道府県	団体数	開催申請数
1 北海道	12	2	25 滋賀県	5	2
2 青森県	5		26 京都府	7	
3 岩手県	5		27 大阪府	16	6
4 宮城県	9	2	28 兵庫県	10	
5 秋田県	3	4	29 奈良県	3	
6 山形県	2		30 和歌山県	3	2
7 福島県	2		31 鳥取県	1	
8 茨城県	8		32 島根県	1	
9 栃木県	11	7	33 岡山県	6	
10 群馬県	4	2	34 広島県	8	
11 埼玉県	28	1	35 山口県	2	
12 千葉県	10	1	36 香川県	6	
13 東京都	50	11	37 徳島県	3	3
14 神奈川県	21		38 愛媛県	3	
15 山梨県	5		39 高知県	2	
16 長野県	7	1	40 福岡県	12	
17 新潟県	5		41 佐賀県	4	
18 富山県	3	5	42 長崎県	6	1
19 石川県	4		43 熊本県	3	
20 福井県	5	1	44 大分県	5	1
21 静岡県	11	4	45 宮崎県	2	
22 愛知県	17	1	46 鹿児島県	2	
23 三重県	9		47 沖縄県	6	5
24 岐阜県	4		合計	356	62

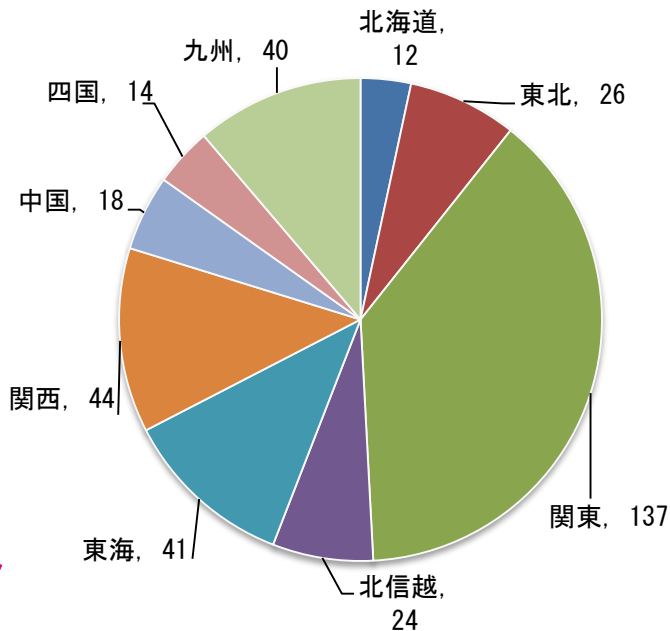
【2020年3月データ】

- ・全国登録団体数 : 356団体
- ・新規登録団体数 : 2団体
(大阪府/東京都)
- ・認定団体数の全国トップ3
 - 1) 東京都 (50団体)
 - 2) 埼玉県 (28団体)
 - 3) 神奈川県 (21団体)
- ・全国開催申請数 : 62開催
(2月開催申請数は98開催、36開催減)

※3月は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、開催申請数自体も少なく、開催中止も多数ご報告いただきました。
(開催申請数は実施数とは異なります)

地域別認定団体数

北海道	12カ所
東北	26カ所
関東	137カ所
北信越	24カ所
東海	41カ所
関西	44カ所
中国	18カ所
四国	14カ所
九州	40カ所
【合計】	356カ所



<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

※次回は2020年5月8日(金) 配信予定です